

# 第六回湘南ひらつか能狂言

## 復曲能「伏木曾我」

六百年の時を経て、平塚ゆかりの曾我物語から

大磯の虎・祐成の能を復曲する

会場

平塚市中央公民館大ホール



平成28年11月26日(土)

開場/13:30 開演/14:00

【演目】独吟「大磯」、仕舞「小袖曾我」、復曲能「伏木曾我」

【出演者】加藤眞悟(重要無形文化財 能楽の保持者)ほか

全席指定 S席/3,000円 A席/2,500円 B席/2,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

【発売日】平成28年9月4日(日)10:00から

【電話予約】平成28年9月6日(火)8:30から

(公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課(平塚市民センター内) TEL:0463-32-2237

プレイガイド

- (公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課  
(平塚市民センター内) ..... TEL.0463-32-2237
- 山野楽器(ラスカ平塚4階) ..... TEL.0463-27-1930
- ヨネザワ楽器 ..... TEL.0463-23-7097
- レストランすの木(平塚市中央公民館内) ..... TEL.0463-34-0456
- ラディアノ(二宮町) ..... TEL.0463-72-6911

主催/(公財)平塚市まちづくり財団・湘南ひらつか能狂言実行委員会

後援/平塚市教育委員会・大磯町教育委員会・二宮町教育委員会

※この事業は平塚市文化振興基金の一部を活用して実施しています。

【お問い合わせ】(公財)平塚市まちづくり財団 文化事業課(平塚市民センター内) 〒254-0045 神奈川県平塚市見附町 15-1  
TEL.0463-32-2237 <http://www.hiratsukazaidana.jp>



学生(中学生以上)無料招待席あり 先着60名

【お申し込み方法】往復はがき(1名につき1枚)に住所・氏名(ふりがな)・学校名・学年・年齢・電話番号を明記の上、下記あて先「湘南ひらつか能狂言」係までお申し込みください。平成28年9月5日の消印から有効

# 第六回 湘南ひらつか能狂言

平成二十八年十一月二十六日(土)午後二時始  
於・平塚市中央公民館

大磯  
おおいそ

独吟  
加藤 眞悟

小袖曾我  
こそでそが

仕舞  
梅若 久紀  
梅若万佐晴

解説

梅若 泰志  
伊藤 嘉章  
梅若万三郎  
八田 達弥

湘南ゆかりの能「伏木曾我」の魅力

法政大学文学部准教授 伊海孝充

朗読・伏木曾我

昭和音楽大学講師 丹波幸江

(三時頃)  
復曲

休憩(二十分)  
能

ツレ大磯虎 長谷川晴彦  
シテ曾我祐成 加藤 眞悟

伏木曾我  
ふしきそが

ワキ虎ノ從者 安田

登

大 鼓 大倉慶乃助  
小 鼓 飯富 孔明  
笛 槻宅 聡

後見 中村 裕  
梅若万三郎  
梅若万佐晴

梅若 久紀  
八田 達弥  
古室 知也  
青木 一郎  
梅若 泰志  
伊藤 嘉章

終了予定午後四時半頃

## 【解説】

番外曲 大磯独吟  
陸奥行脚をする都の僧(ワキ)が豪雪のため帰京する途上、大磯まで戻ってきた。大雪のなか小さな庵にたどり着く。ここはその昔、大磯虎の庵であった。庵の主(前シテ)が大磯虎の身の上と更に曾我祐成が富士の裾野で本懐(敵討ち)を遂げたことを語る。主は祐成の面影が忘れられず僧に回向を頼む。(中人)僧が夜もすがら読経すると大磯虎の霊(後シテ)が現われ回向に感謝し舞を舞う。夜明けと共に姿が消える。独吟では虎の身の上から回向を頼む場面までが謡われる。(近世の作者不詳の能)

## 仕舞 小袖曾我

頼朝の富士の巻狩に加わり兄弟の本望である仇工藤祐経を討つ前に、祐成(兄)は母から勘当されていた時致(弟)の許しを乞うため時致を連れて曾我の里に行く。母の思いはかたく祐成も勘当するとまで言われるが涙ながらに訴え許される。狩場への門出を祝い二人は酌をし舞を舞う。やがてこれが母との最後の別れと涙するが、本望を遂げることこそ親孝行と心を振るい起こし富士の狩場へと向かう。仕舞では、祝いの舞の後から富士の狩場へと向かう場面を二人で相舞をする。(室町時代の作者不詳の能)

## 能 伏木曾我

親の敵を討つた末、富士の裾野で果てた曾我十郎祐成の墓所を訪ねるため、祐成の恋人の大磯虎(ツレ)と従者(ワキ)が井出の里にたどり着く。そこに現れた狩人(前シテ)は二人を祐成の墓所に案内すると、草むらの中に姿を消す。(中人)夜になり虎が墓所の傍らで仮寝している、夢中に祐成の霊(後シテ)が現れる。幼少の時に父を失い多難な道を歩んできた自らの不遇を語つたうえ、敵の工藤祐経の命を狙った富士の巻狩で、狩場の中に祐成の姿を見とめつつも、馬が伏木に足を取られ横転してしまった事件を再現して見せる。最後の夜に祐成の屋形に忍び込み、ついに本望を遂げたことを告げると、虎は夢から覚めてしまう。「曾我物語」の有名な場面を見所にしつつ、祐成と虎との紐帯を描いた佳作。「伏木曾我」は近世以降番外曲となつてしまつたが、室町時代には観世流ゆかりの能として上演されていた。

## 「伏木曾我」の復曲 加藤眞悟

能の上演に際しては、台本でもある謡本他に、所作を記した型付け、問狂言、囃子の手付けなどの書物と能面、能装束が必要で、「伏木曾我」は室町時代の謡本が幾つかあるものの、演出関係の資料が少なく、その詳細は分かりませんでした。「湘南ひらつか能狂言」では、前回の平塚の武将「真田」復曲に続き、今回は大磯虎の登場する能「伏木曾我」を現代の能の演じ方に則して復曲します。

この度の上演では「伏木曾我」検討会を組織して室町時代の謡本を検証し、梅若万三郎師を始め、当時の謡の音律の研究する丹羽幸江先生(昭和音楽大学講師)、中世文学及び音楽研究者で番外曲に詳しい伊海孝充先生(法政大学准教授)、安田登師(ワキ方)、離子方、諸師の方々のご協力を得て約一年をかけて現代人が語る謡本を完成させました。

希望者には復曲「伏木曾我」の謡本を1000円にて頒布します。

## 会場・チケット販売所案内



※駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。

- JR東海道線平塚駅北口より4番線バス「江陽中学校前」下車 徒歩1分 (「平67」は通りませんのでご注意ください。)
- JR東海道線平塚駅北口または西口より徒歩15分